首書

源氏蔵

東洋文庫

序

太上天皇

葵の御とよは伝説ゆつりておほせさるものの
ものとよろこれ給ぬ桐壺の院とぞ
院の御ものがたりとあつめひよりんとぞ

前坊

秋好中宮　母六条の御息所

葵よりはるかに成給へるおほせ
よ給へるつもりなる給合ようよりあるて
梅つかとやきし女よりは中宮よりは御はら
皇后宮よりあるつもり

桃園式部卿宮

葵御とよは御襖尺給とあるつも
給ふ〻満雲御とよりんとぞ

源氏

檀家院

はくきくの宮中川の南にてけうたんさかり
さうまよりようものいつきよりある給うと云う
父文の出服よりもて参り給桃里家
より女房文とあひとまをえ
院のひとつは服也拾殿の内方よりある給
女房の宮ようきを給うしいう

女五家　桃里家より位給うし給ふよう

三家

朱雀院　母八弘徽殿の女后

桐つかの宮より春文蔡より位給つき給へ
ふおけうより位を春文よりつかわるのよ
けうしおうして西山の出寺よりとまを給おう
宮六条院出家の事より一院うり出門也

今上　母兼香殿部舞里妹

四人の宮を二歳とうおけうより春家
梅うえより元服若菜下より位給つを給
女二宮　うりかの上より乃宮
母八二条院里所

高業家　母八二条院里所

若菜下より柏木大納言の内方より
給桜より女房大納うひえ給

二品内親王　母光帝源氏宮

若葉よりよ六条院よりとりて内下よ二条
しる梅木をよりうるとうを知りたるし
まをやうて居よりうる知
女宮　母うるよりよう

春宮　母明石中宮

うるよりよりてうじまれ知ひて内下よ知う
内知よ

太部宮　母春宮より内し

白文の母きよりく宮の中君をえて六条院

の寝殿をやとき家よし知三条と中宮
うをうよりよ母きるる
白吾部宮　母内上

□

ゑるるよりよ生れ知白文の母きよ元服し
て三条よ住と第上やしるひ知しこ
ゑや
若君　母宇治の中君

やうう木の母きよ生れ知
常陸宮　母八宮長系腹うきんし

白文の母きよりく宮の大君のうちれ入りる
し知し白三条よりうひとされし

人口のうへにはべるめり

中務宮　母八同春宮

うるはしくよをさまりおはしますきのうちの人

夕霧のたいしはまうのぼりたまひて東のたいの

めのうへはつぼねにまかでたまへるほどのことなり

ものうらみやうちまゐりたまふ御のうへのことなど

よさりうちひきしたまへる人

一品宮　母八同春宮

えもいはずとやうにうちひきて六条院の南の町

よりとりあつめたまへるかうばしさなりけり人

女二宮　母八夜つかの御

やうにあるよりの内のはしらのもとにうちたてる

ひとりとりたて

六條院　母桐壺の更衣

七歳にて源の姓をたまはりて十二にて元服したまひて

よりの中将にて蔵人より四位三位中将光源氏　四位にて宰相中将光源氏

蔵人にたまはりて殿の御をよりの南よりうちの御

よりはよりのぼりたまひてうちの御ぬりのはしらの

ものうちにはよりの内大臣にうちたまひて牛車

のまへにてうちうちにはよりの殿上人

よりの上にたまはりの御ぬりの裏

夕霧左大臣　母八葵上

[illegible]ては内裏の屏風に女房元服
してあるきまてうつりの月を乃秋
除目のうつりの朱雀院行幸の時行
身かりおうつる中納言大夫宰相中将
夜のうつ紫宸中納言とうかとて大納言
月下の大納言まて大納言より特と白文の
中宮の左大将 左大将 竹川の左大臣 左大将
母八条院女三宮

薫右大将
物の中宮に生れ給白文の中宮元服
て白信の行信と宮四三秋右を中将 寺西月卷
よう信して寄和のうり 中将 竹川の中納言

やうり木の二月のうり物の行大納言
大文物と宮のうと
四の中宮 母あうーの上
三条院の三月のあうーのうて生れ給
松風の三やこのうて大井の行信嵯峨
の六条院へむうへ行者のうち紫の中宮へ
紫うてもけいーやとの四位の中宮白文
の中宮の左大臣 母八三条上

右衛門督
若菜上の生れ給うーいうのうり若
菜下の朱雀院行幸のうて中きうーハ

そ給りうさ世乃東撰所ゆゑとゝ乃
太部君と云て白文の世をよのうち乃日
出仕せ人文ゆゑ文字乃ゆゑて藥
見給へ日中文の世つひてまゐてら
らあをまうさ世をよんとうう

中納言　母花門侍

六条院文の世方むくて屏ゆゑ乃
次第君乃世乃東撰院の世文乃ちくおるき
者日あふさみとおゆく給へ若
葉下ようゆゑ白文乃世をよのうち乃日た
世給へとおゆく出仕せ人

右大弁　母三条上

白文の世をよのうち乃日出仕せ人推乃
ようゆゑ給へうちうゆゑ下ようゆゑ
世給へ

侍従宰相　母不審三条上歟

推乃世よ白文のちつをまゐての時乃世給へ
給へうゆゑ人

源宰相中将　母三条上

夕霧の世をよんとうりとハ藏人乃行
川ようゆゑの中将日巻ようゆゑ宰相中将推乃世よ
権中将とゆゑ又あをまゐの巻ようゆゑの

はるもよて宮仕へまゝて行又まゐりの春
よ日し行るてゐたり春上ーうゑとい一方
はんくるや

乃中侍　母友円侍

行川よ源おねるといふやうまよるれ金
六月ようるひれあれし時又おくこの法ひ
るてまるるひるてるてるてるてるて人雅なよ
乃おねるしるる山人なるるて

四位おね　母三条上

一品宮はるやうこのるる横川侍知のるる人
中宮のはるひ女し人行川よ高陽侍雅女

童　母おるるる

やうる末よ今上の女二宮夜乃えんし知
し時是吹るうし人七帝者とるり

玄宮女御　母三条上

白文のまるよ玄宮人まるり知者とるて

中君　母おるし

二のるるの小のるる

三君　母友円侍

四君　母三条上

五君　母円し

上臣人々方のまをすこと

六君　母友門侍

やうすまを白えの小れ方よりうつ

蛍兵部卿宮

りとう帥宮と申し母は朱雀院の行幸の時兵

部卿とまをすひとつ紅梅より生れ給へり

伯宣　母りとの小の方

梅枝より六条院ちうちの所つとひて来

うりおとり人

童君

同

はこ人へりとうとの下より朱雀院の四宮人のまをす

より万葉示まひれ

宮帥方　母まきうりの上

又ひとり紅梅より生れ給へり梅枝宮大

納言のりとうより白をまをすこと

りとうひしり人

冒宮　母承香殿女御

薫かをるより中将風示まひれ人

帥宮

宮より六条院のうちの橋のもとにおはす

をりとうをまをすひとりてんとうひと人

八宮　母大臣女

宮君　[illegible]

[illegible]

総角大君　母大臣女

[illegible]

中君　母[illegible]

[illegible]

浮舟　母常陸介の女

[illegible]

式部卿宮

[illegible]

侍従　母[illegible]の少将

宮君　母同じ

[illegible]

冷泉院　母弘徽殿の女院

[illegible]

[illegible]

一宮　母ひをとろのゝ左大臣のむすめ

女一宮　母政任大臣女

一の宮より竹川のなを

女二宮　母一宮より同

竹川より生れ給へる一宮は姉也

一宮　母朱雀院より同

女一の宮より京乃とゝ申すなる

女二宮

前斎院

葵よりもの思ふさまなる給ふ院の

御ものゝ思ひよりて出り給ふ后腹の女三宮

ゝ

●光帝

式部卿宮

紅梅の大臣と申すなる

藤壺女院　后腹の皇子也

桐壺帝より同へ給ふて源氏の

加へ給ふ宮の御ゝ事をとて后の宮

紅梅より東宮へ入給ふ

天皇より母方の祖父太上

皇の御ゝ事

源氏宮　母更衣

朱雀院皇子の西の方にわたりてめしこめ
たてまつりたまふ　春宮

上の宮

源中納言

左大臣よりたてまつる　桜花の宴院わ
ざとしかしこくおぼしたる源中納言
とぞ

若君　朱雀院の女三の宮　宮廷

中将

侍従

民部大輔

上達部いとあまたいでたまふ
しかるべきかぎりの殿上人
舞姫大納言室　母今の小方
大将よりひとつのまいりたまへる人
紫上　母桜宴大納言女
十ばかりの源氏の君むすめとりたてまつ
りて車をゆるしたまふ
北の院御方　母のろろの御方
女は入内したまふ中宮にぞ立

とも第上らいいりとくる

・常陸宮

阿闍梨　初音の巻より磯砌の阿闍梨ごえり
源氏の御八講よまりてつとまりいりとの
けりとてとくる孫ろらしく人

蓬生君　末摘花の巻より源氏のこまみよる
蓬生よりんうのみんようろしる

・摂政太政大臣

桐つかよ太政大臣まて源氏の名代加冠せし
人なりさうまの巻より政仕身おたらうより義
太臣まて按政しるうす雲の御月ようせる

致仕太政大臣　母三条

まうつかよ義人おるとくきまよる中将藤
かくよ御信下養よ三位中将と海よ宰相
ふるけうよ行中納云うす雲よ権大納云
まて太臣を太臣をとし母よ内大臣養の
うう藤よ太政大臣ろうか下よ致仕の表な
里行ふうを行へうしまるふうの巻より

左中弁

弟藤よ心へ源氏のけひうよ弟うしく人
花のえんよ中将弁まとまりあしてと
いうもけへうるへしタうかの巻より義人の弁

もじ人をや

花大納言

玄宗大史

はこ人御ゆきよ源氏三条の宮へ上り給ひ
し時殿上のおとゝ引つゞけて参り給へ
人々りうりうの装束ときあり し如よ唐
門殿中納言とやなるもじ人この事を
ゝりゝ人の節ゝ参り給ひ給ふ人〳〵

蓑上　母三条

わらひのちまきよりくさ方をゝゝゝゝゝ

梅木権大納言　母三条大政大臣女四君

しゆよ左近かねこてゝよゝを中納言殿ゝ
乃中納言ゝよ宰相中将殿四下ゝ殿中
納言梅木ゝよゝ宰相中将殿四下ゝ殿中
てゝゝゝゝゝゝ

紅梅大臣　母四上

ゝゝ木ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ弁ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
弁梅木ゝ大納言ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の法皇ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しもじ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

行川は花の名所にて
おとらず又桜の
のぶむらは高
やうまあつまやはいうて
いろ石寄

大史　母真木柱上
名桜はいろいろにて言ふのうとの
花のもの名ばかりしく人

藤宰相　母故少方
紅梅は花の名人

中将　母同じ

右衛門督
はや

花宰相
いろいろのものうつさうて人は
ちらす花の中の花は言ふ人
おひし一対三枝さうひ人をうつ
六条院は言ふひて法華院は
人はや

頭中将

兵人かね

はこの人は今の花の名ちらす殿上

しるはあひ　ひとりしへくとちの女子
とうう又々宮方大納言家よりひとやと
てこのかねをうひて文ぶしわれとそひ
うめしとくとの名さいしなよか納言
家依信卿と行しもうるかとよ鞠
の時家依卿の君とうちもひへくらし
八帝君　まさきうらう踏子の時うらう
ちてまこしへ人衣のうち柴の行幸よ笠王慈
まひしもけれんうへ
玉鬘尚侍　母夕うかのうへ
四の年夕うかのうへ乃めのとよりてつへ

くうり年へてあ鬘方の君よ東へのかうち
ちう殿よ尚侍まいりきたりうひをうるの方
よりまへ
弘徽殿帝
おほきうよ十二ようて内へ参る
夕霧大臣家　母ハ按察大納言の方
ちうのうりとうちをとうひ人
近江君　母ハれたるくまうの人
●二条大殿大臣
朱雀院の御母方の祖父乃めハ右大臣明石よ
大殿大臣ようて女君へうしまう

後六条院

次第　さう来よりの白地日をつくるもりと

彌生十人

葉室後世卿　　朱雀院御ぐるまの宣旨

乃世卿さう来よりの

宣旨の内　　ちやうく宮のえんしゅく出り源

氏の御むすめよりの宣旨ありて元しるしてのみる

いとうしつ人

左中弁　　はじ二人八源氏四ろう月秋の行幸

えんまんくてわの陣乃東よりの人をつまて

えをはりしとき弘徽殿なりおれ人の出とり

弘徽殿大后

朱雀院の御母おほひよ皇太后宮なれひ

めらうしりうしるよりる

宮御文少方　　元のえんの事をよりるえれ

はりう胡蝶よりのえんとう

殿仕大臣宣

文右

臘月東宮侍

あをひよ朱雀院よりてうけなとる

さう来り商ひうる下より西海より船六
のぼりて

・左大臣

左大臣このんかるべし　ゆきさきわきまえよりてり乃

女御　法皇院御所のときは女御きまれよりあ

・左大臣　牧ゝえよ左大臣ひとりる上のも公卿

大納言

源中納言　山三人常ひとり出船とあるとも

右衛門督　女御

今上ときの内ものはひしらの明石中宮
よりきれ船さ女ゝつりをうこをりうこ也

船ゝやうゝ来よりたこうう又梅うえよ藤原
長とやうえしこまれ公人とや

・左大臣　行川左大臣と号ゝ

女　夕雲のの如くに北御方宰相中将義人
のかれとやうえしの時ひとめ船ゝ

・右大臣　今上乃出御文明石よ右大臣と

乃ん極

鞍馬右大臣

こて女よ大臣船ゝうかよ左よ鞍と日下
よ大臣ゝて左大臣を諍と新帝の御
うゝをこ船大臣ゝ女船ゝ行川よ

[illegible]

[illegible]時　源氏たちのとしこ時の所
[illegible]
[illegible]

兼香殿御　朱雀院の御所今上の御母
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

時にて参り給ふ米屋院はかくのごと
自然寺に参り給ふ菊川より参り給ふ
中井用人忠左衛門
作中納言　毋[illegible]
竹川より侍従用忠左衛門
真木杢左　毋中納言
[illegible]下より当の[illegible]乃[illegible]
[illegible]て後[illegible]
[illegible]方より[illegible]
[illegible]
女郎　毋玉[illegible]

竹川の用より冷泉院へまゐり給ふ方の用
事相中納言殿へ参ることに付[illegible]
人

尚侍　毋常[illegible]
竹川より毋のゆゑをとりてるつよりてや
そなたへ参り給ふ中君といふ

・大臣

六条御息所

[illegible]
[illegible]
[illegible]

・大臣　女御　宮腹八宮御母

・右大臣　宮腹の四方　ひとまに三人うちとけてうれ
はしくさうしあるよう
宮腹の四方姫　うれしもうたこと

豊陸奥四方
宮腹の四方の四方　れめいりとゐ中納のさみとて文
よさつくしひさ四方うせおてはてうしひの
ちみをさかりうのちよひうちよりてみた

ひめよりいと御
かりうのひとあとと
・大将　左近少将　東宮よりおなじうり
ひうちのうひうちと
・権中納言　左衛門督　源氏中川のうえうえの御とうへ
ひうちへうりて　ひうちへうりてのおとこうとせ
のやうし

宣旨

右衛門督

女　母

冬嗣

明子　乳母

[illegible]院宣旨

三位中将

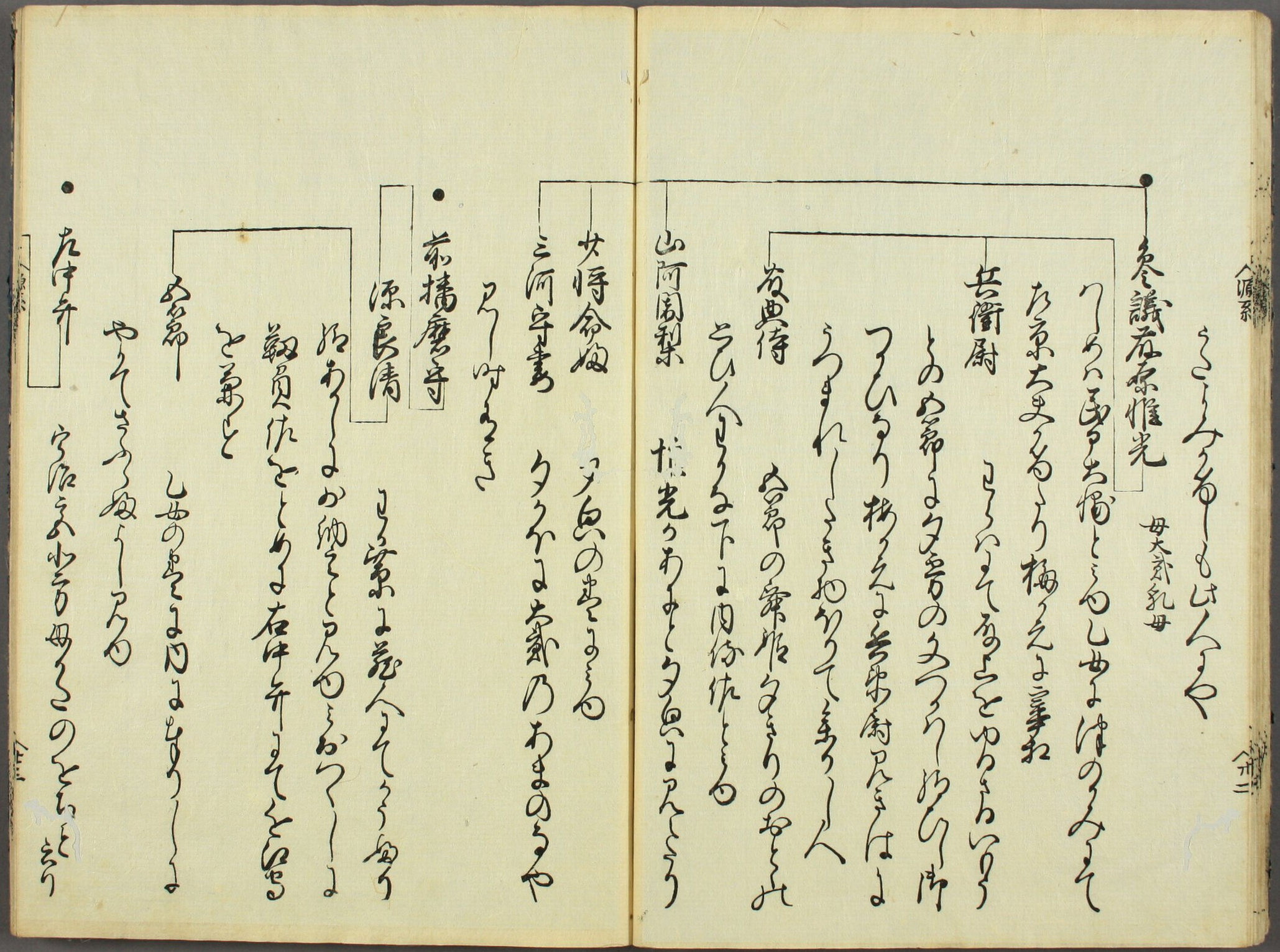
夕顔上

[illegible]

宰相

宰相君

[illegible]


参議左京権大夫惟光
母大弐乳母
つぬの国守
左京大夫
兵衛尉
左衛門尉
山城国掌
右兵衛尉
右馬頭
大夫典侍
大夫の乳母
女侍従命婦
三河守妻
右馬頭
源良清
右衛門尉
右馬頭
右中弁

弁慶　世に極楽のめて

世をうの白波のあてのあいるる古郷の

しるべの月やあしの海をてらし中

蔵よりも

●信夫

てはもやうのかりの思ひうちまく

紀伊国　源氏若ろうの中川の家あり

世をうの海内ちるうらみもあるとつくさ

よりも

義人京近の盗

源氏ちかいの所様よりうまうの

あまるわ〻さ

大石

入道播磨守

乞清中ちうげうの神して播磨ちるか

うの風よりてうらもろうとうもろうと

よは海をさうてつくむよりうと

　世八中勢力和尚の心まと

松風よりのうとうとるれて古井よ信し

うし世よ古平尾よりとうて色の所方と

きこも

極楽寺内云

雲林院律師

源氏の君にはなれたてまつりたまふ

人々さうなきものの

桐壺更衣

源氏の君をうらみてこの世とこたへよりふか

くなりぬるうきとしてまてはるけてこの海を

ゆくさきもなき野のうつゝ悲哀とをもふ

• 梅宮大納言

紫上母　母八ゆかりの伝教院

• 梅宮大納言

太政大臣

時一負さうしの人なりしを海のうふかもし

きはしりあり上の御ものをうしなひたりのり

てゆけいとうとうまうとうとうとうとうとう

義人おほ

宇都の君はもとの源氏うをみのもの

の東あひはてゝ新ものおもをもとをもとを

うとうてはうしらしん

• 常陸介

ひたちのかみ　もとはたちのうのみのちよう

義人　母ハ遠

東屋ようちのはつひとて白女（まつ）

一人

蔵人左近将監　母いまの中の方

くりの右近将監　母おかし

左衛門尉　母同し

源氏中書　母同し

右兵衛の督　母今の中の方

右馬の頭

源氏の中将　母おかし

源氏の宰相中将　母同し

源氏の侍従　母同し

源氏の中将　母同し

源氏の中将　母同し

源氏の中将

次郎
三郎　此二人は佐々よりあまたしけて来るか
らと
揚名の女房
姉おなじ　三人は佐々よりあつまりて来るか
らと
三郎君
ちちあてこさいひさむらうとて
のりうち
・三郎太郎
太郎兵衛門のあのと
まんとうとうとて
母君御前
丁ゑ佐ゑのあるよ源氏よりとて出し
人

不載系圖人々

今案以巻々々注之於臺随身号者不載之

一 桐壺

後涼殿更衣

靱負命婦

右大弁

左臺所母后

内侍

二 箒木

右馬頭

右馬頭妻 指喰女

木枯女 右馬乃妻也

桐壺更衣母

内侍のすけ

典侍 左臺の所の母后の女房人々

大蔵の卿人

命婦

藤式部

大納言 ひとゝせ二ゝたゝ云云

一云左大将父ともいう

博士 左式部妻の父

左式部妻 博士女

中務 同之

三 空蟬

民部のおもと 一本ハ侍のおもと

四 夕顔

大弐乳母 惟光母

揚名人

右近 夕顔上女

夕顔上乳母 大弐妻

文章博士

五 若紫

中納言君 葵上官女

中将君 空蟬官女

三川守

中将君 六条御息所母

惟光父乳母

尼人 女侍 新編荻史

小山亜
サ納言乳母
王命婦
明石上母　故中務宮のむすめ
いなさ　紫上ものもの
[illegible]小方　紫上ものもの母

六　赤橋花

[illegible]乳母　大殿命婦母
[illegible]大殿書　大殿命婦
赤橋乳母
[illegible]院

出羽都　紫上母のおもとの
北山僧都弟子
弁　若菜の乳母子也
紫上外祖母　按案大納言[illegible]
たゝ[illegible]　紫上母方

筑前守　[illegible]乳母なのめ
中務　紫上妻
侍従　赤橋の乳母子也
左近命婦

肥後采女

七　紅葉賀

参議左衛督
参議左衛督　此二人案賀の日乗行事

左大将
命婦　王命婦
中務　此二人若[illegible]
一院
[illegible]内侍乳母

八　花宴　別人なり

九　葵

兼香及女御　四宮母儀
中納言君
大弐
源内侍
[illegible]更　源内侍更

女院 未病ましく
源典侍
宰相君 ゆきかた乳母也
あてもの 葵上の童也
中務君 源氏女房

十 板樹

王命婦
少納言乳母
中将 撫子院の女房
弁 右つかの女房
式部 春宮女房

少納言乳母
山座主
中納言君
王命婦
弁 はつせ乳母の女

尚侍
紫上継母
中宮大夫
中納言君 朧月夜の女房
右衛門督母后

山座主

十一 花散里

麗景殿女御 相撲御門の女御花散里のあね也
花散里上 弁のおもと 三君とも
十二 須磨君

花散里上
宰相君 ゆきかた乳母也
麗景殿新
中将 源氏官女
王命婦
中納言君 撫子

横川僧都 右衛の母方のおじ也
女 時鳥の物語あり

中納言君 葵上女房
紫上 継母
少納言乳母
中将 同上
小山伊勢
子枝 繪師

常則 同上
明石上母
十三 明石
女五宮 光源氏の所にてうまれ給へるなり
明石上母
十四 澪標
夕霧乳母
中務 同上
故院宣旨 明石姫君の乳母の母也
摂津守
弁乳母分
大弐北方
春宮乳母
花散里上
中将 源氏妻
花散里上
麗景殿女御
弁乳母
弁乳母

十五 蓬生
侍従
まつ 侍従の母
大弐乳
花散里上
十六 関屋 おなじ
十七 絵合
弁乳母
平典侍 物忌方人
女侍 命婦 同
中侍 命婦 同
弁院 うせ給へる乳母
大弐 ひとあしもとまでの
大弐のおもひ 侍従よりうせ
女侍 侍従のおもの老人
修理亮 内侍奉行 一人
侍従乳母分 同上
大弐乳母分 弘徽殿方人
左衛命婦 同

まんのう 侍師

十八 [illegible]

花散里上

中務 新王 明石尼君父

左中将

花人弁 四ツ目の所役

十九 藤雲

明石上母

花桐壺上

侍従 一本法勝の侍従とあり 冷泉院ゆゑ[illegible]

王命婦 [illegible]殿よりてまつり

右近中将 [illegible]

明石上母

民部大輔

兵部卿 此二人大半一致[illegible]

右大弁 故院の所所の人とあり 一本[illegible]とあり

少将 明石姫君乳母也

中将 源氏女房

十九 撫

撫子院富貴

花散里上

十一 乙女

撫子院富貴

左中弁 同日講師

式部大輔 同

雲井雁母 按察大納言今ハ方ろうんこそうこそ

小侍従 雲井雁の乳母子也

雲井雁乳母

花散里上

源典侍 尼まあてはあてはあては

右近　六二　玉鬘

少納言　花散里上　六三　初子

中将　六四　胡蝶

中宮亮　ゆかりこ　玉鬘のもうと也　六五　螢

大夫監

大夫監

三条　少納言の下女

花散里上

右近

五節君

太輔君　弘徽殿女房

右近大夫

内侍　同

右馬助　夕霧家人

蔵人右衛尉　源氏一の初使也

六六　常夏

近江君母

妖法寺別当大徳

中納言君　内　六七　篝火

右近　六八　野分

宰相君　秋好女房

花散里上　六九　行幸

左右大臣

八十 蘭

弁 玉鬘女房 髭黒の使ひ一人

八十一 末摘花

弁 おろろの女房

中将 髭黒の北方女房

中納言

右近

八十二 梅枝

大貳 六条院より香をもとめ

内侍 明石中宮の御ぐしあをよまいり

左衛門督 紫の上の御ぐしをよ

右大臣 夕霧よりひとあのすきものしるし一人

八十三 若菜下

中務宮 同上

右近将監 夕霧侍

雲井雁母

花散里上

右大臣 夕霧よりひとあのすきものしるし一人

中務宮

灌佛御導師

明石上母

大納言乳母 雲井雁乳母六位すけとしひら一人

宰相乳母

右大将

八十四 若菜上

朱雀院女房 女房更衣 女房女房八原氏之母

女三宮乳母

左中弁 女三宮乳母の四ろうと

右大将
花宴宮上
春宮宮内卿 三条の御方
中宮権亮 院の御方にもまゐり給ひつゝ
第上 紫母
中将 同
和泉式部 勝月東の中納言君
右大将
花宴宮上
春宮宮内卿 三条の御方
中宮権亮 院の御方にもまゐり給ひつゝ
第上 紫母
中将 源氏女房
中納言君 勝月東の中納言君
中納言乳母 女三宮乳母
乙中将 源氏中将のもの
四の上母
小侍従 女三宮乳母の子 右大将五三位殿の御方にもまゐり給ひつゝ
五 同下
紫上 紫母
明石上母

中将君 源氏女房
花宴宮上
小侍従 女三宮乳母子
柳本大納言乳母 侍従乳母の子 右大将殿下臈の子
弁院 女三宮の御方にもまゐり給ひつゝ
物寄君 女三宮の上臈女房
源中将 あをちの君
柳本
小侍従
柳本乳母
一条中宮
故侍従 少将侍従
一条中宮 後朱雀院御下臈の子
侍従乳母 女三宮乳母 小侍従の母
弁院 女三宮の御方にもまゐり給ひつゝ
物寄君 女三宮の上臈女房
源中将 あをちの君
葛城行者
中宮
小将君 一条中宮の弟 大将殿の御方にもまゐり給ひつゝ

八十七 撫角

一条中納言

夕方之君之乳母

八十八 紫式

女房乳母

左衛門

九十 夕方

一条御息所

女房君 一条乳母女房

大夫乳母 夕方乳母也

左近 一条乳母女房

故式部宮 但桃園ト

式部大輔

左衛門 但はと人の殿上の名

藤宰相 藤原よみちゝん

侍従姫

左衛 直のゝ殿ゝ

大和守 一条中納言の子ひかる君の乳母

九十一 御法

花散里上

九十二 幻

中納言君

花散里上

備前内侍

九十三 匂宮 別人物

九十四 紅梅

按察大納言故少将

九十五 竹川

太宰帥君

九十六 匂宮

中将君

侍従 紫上御供のゝ出家せつる

九十七 夢浮橋

中将のおもと
宮治一 格姫
阿闍梨 宮
梅木乳母 弁尼母
二 椎本
あさり
三 角絵
あさり
四 早蕨
あさり
五 宰生

小侍従 女房
左近将監 あるの女の夜

中宮大夫 白系の侍従よりまうし人
大輔君 中君女房

上野大夫 宮上よりまうし侍従
侍従 あるの侍従と
阿闍梨
女将 中君女房
侍従 うきふね君女房
六 四阿
源大納言 宮陸奥寄
大輔君
右近 大輔うしとも
中宮大夫
侍従 宮系女房

右京大夫 白系の侍従南
牧宮君 あるの人
大輔君 侍女房 但中君女房と
中宮大夫 あるまうの同人

侍従子 同上
侍女君乳母
女将 中君女房
平重経 中宮の侍

大夫君　女房君

大内記道定　式部丞兼右衛門佐仲信卿子

出雲介守時方　白太夫乳母子也　兄人にてうえもんのすけ

右近　浮舟女房

侍従君　浮舟女房

右兵衛佐仲信　うねめの家人　医師

浮舟乳母　浮舟乳母もとより

同侍従　時方の妻　宇治のあるし

右近　右衛門督殿ハ　中将殿女房ム

右とうの中将　ひらとうの中将

内舎人

白太夫乳母　受領の妻にて　おもんとうとより

山賤

右近大夫　うねめ　むしとも

右近　浮舟女房

時方

浮舟乳母の子　右馬の頭

大夫　宇治の別当の人

侍従

小宰相　一条女房　うねめの子ひと

大納言君　一条女房

大夫の君　むすめ　むすめのりこうのこと

弁の尼　中将の妻　但一条女房ム

中将君　一条女房

浮舟乳母

侍従　はじ　右大夫ハ　あるし

内舎人

あるじ　今ハ侍従　宇治のあるじ

大武　うねめの女房　位　女房ム

馬頭　故式部の少輔の女　こと

横川侍従
小野大尼 侍従母
一条御息所
右近 保母女房
こりき
中将 小野尼昔の宰也
友中納言 中納の今ゝ家仕難足の島ん仕可勤
左衛門 妹尼の女房 但是も尼ん
あまの尼 おなし尼の母ゝ也
紀伊守 大尼君のむまこ

同侍従母
右衛門督後家尼 小野大尼女 侍従妹也
女侍尼 小野尼宮尼
侍従 妹尼女房
このり
孫師君 侍従母中将の母ゝ也
山尼
宰相君 一条女房
尚侍小方 紀伊守母ゝ也

宮内卿師
夢浮橋
横川侍従
小野尼

小野大尼
紀伊守

光源氏の祖父系譜にいつまでの世より
おきてうりうれんへのこととるとしつまをとる
ま同まちくまして是非とまつうるめて
展轉書写のあやまりるへ世ろけ和歌よ
心さしうりうこ言ケ年うをたひよあしひうし
中餘情のうちつよひうさうて煩乱とり
たりうき浮説ときりうろ就中武家ろるま
おなんうろうを一重くよとをて人
ううとうるすりは上ろは勇ていうを無
うとうもあるるのうとうさをるるうんうる
りのようりていをのうく後ろて詞論潤

色をとへ別書写接合をとうりのふと
れのあ後ハ代うのてあうひあうて歌く
の紀氏へうとあ尋しうとうも枕花坊の逍遥の
花鳥餘情を抜して松岩寺の相苛の河海
の遺漏を変し紀へるよるとうるうし後序
ものうれるをひうひあやまりをあたしうる
之生のしうさよるとうしれい後生のうもかう
ちんうをうるうはうんやと筆をのうし紀まハ
今の系譜のをうしうさは義理よひうく宮ろ
ををうる中ものなをあやまりるうよあるほう
ろ来君子必ろうろうをおのうく出る角上

いつ事さらに世を長寿二のとし書陽乃三方
こゝをさらぬ事をうけ